



2021(仏暦2564)年 1月号 (第112号)

万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾 4 6 1 - 1
電話 0267-67-2460



光
寿
無
量

■住職法話

生かされているいのち

■浄土真宗 ⑧ 仏事のイロハ

■本願寺の本

令和版 仏の教え

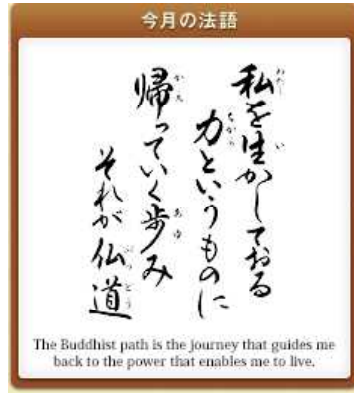
■編集後記

年忌法要表

1 周忌	2020(令和 2)年	23 回忌	1999(平成11)年
3 回忌	2019(令和 1)年	25 回忌	1997(平成 9)年
7 回忌	2015(平成27)年	27 回忌	1995(平成 7)年
13 回忌	2009(平成21)年	33 回忌	1989(平成 1)年
17 回忌	2005(平成17)年	50 回忌	1972(昭和47)年

住職 法話

生かされているいのち



昨年来のコロナ禍の影響で、お葬式も様変わりしました。最近では、家族葬どころか、血縁関係のみの「身内葬」といったものに変わりはじめています。そんな変わりゆく葬送の中で、仏事の必要性というものも問われています。

さて、私はお葬式の時の法話に加えて、必ず一つ問いを投げかけています。それは、「なぜお葬式を勤めるのか？」ということ。亡くなったら当たり前のように勤めていて、なぜ葬送を行うのかという問いを次にお伝えしています。

それは、例えば話になります。今ここにおられる故人がこの世に居なかつたら、生まれてなかつたらということを考えてみてください。そうすると、今ここにおられる方々は一人も居ないはず。それはお勤めしている私も含めてです。そういった様々な縁によって、今ここに居させている。言いかえると、亡くなられた故人との

縁という繋がりによって、今ここに「生かされている」いのちに気づかされるのです。人間はどうしても、「生きていく」という自分中心の見方をしてしまいがちです。見方を変えると、仏さまとなられたご先祖をはじめとして、計り知れないほどの縁によって「生かされている」いのちを私たちは頂いているのです。そのいのちのご縁を頂いた大切な方を儀式をもってお送りするのがお葬式です。ですから、「ご縁をありがとう。南無阿弥陀仏」と感謝の念仏申すのです。



浄土真宗

④ 仏事のイロハ

一、お仏壇のお飾り

— 仏さまを仰ぐ —

「お仏飯と供物」

「いのちの恵みをよろこぶ！」

法事でお参りしますと、たまたま、何種類もの果物やお菓子、お酒などで「占領」されているお仏壇に出会うことがあります。また、「ご丁寧なことに位牌の前にも同様の食物やお茶、お水が置かれていたりします。

そんな場合、必ずと言ってよいほど、肝心のローソク立てや香炉、花瓶が除け者にされ、経卓の上などに載せられていたりするものです。お

供えは何も沢山すれば良いというものではありません。それよりもお仏壇の中は秩序よく、調和のとれたお飾りにすることの方が大切です。

そこでお供え物の心得について述べてみましょう。実は、これまでに触れたローソクの火やお香、お花もお供えの中で重要な物だったので、ここでは食物のお供えについて述べます。すなわち、お仏飯と、一般に供物といわれる餅、菓子、果物などです。

お仏飯は、他の供物とは別に、特に大事にされている物で、毎朝「飯が炊ければ、一

番にお供えすることになっていきます。仏飯器と呼ばれる専用の器に蓮のつぼみ形に盛り、「本尊の上卓、あるいは仏飯台に置きます。

朝、お供えしたお仏飯は、午前中に下げることになっていますが、最近はパン食も増え、必ずしも朝「飯を炊くとは限らなくなりました。そんな場合、朝でなくても、「飯を炊いた時に、真っ先にお仏飯としてお供えするように心がけてください。

また、法事の時など、他の供物はあるのに、お仏飯が供えられていない場合があります。す。せつかくの法事ですから、「飯を炊いてお供えしていただきたいものです。

次に供物ですが、法事の時などにお供えし、作法の上から①餅、②菓子、③果物の順

に重んじられています。

お供え物というのは、心的には仏さまやご先祖に「食べていただく」ようにお供えするわけですが、むしろ、主食となっている「飯をはじめとして、私たち自身が生きていく上で欠かせない物であり、潤いを与えてくれる「食物の代表」であるわけです。その意味から、他所からいただいた物も先ず仏さまにお供えする習慣をつけましょう。

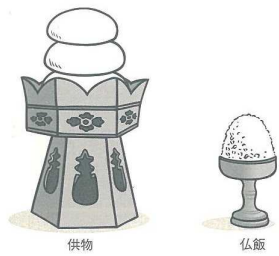
ポイント

▼お仏飯はお供え物の第一。できれば毎朝供えましょう

▼供物は供等などに盛って対に置く

▼供物の基本は餅・菓子・果物

「浄土真宗 ④ 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



供物

仏飯

～本願寺の本～

令和版

おまかせして生きる
阿弥陀さまに

仏の教え

浄土真宗本願寺派 第25代門主
大谷光淳 著

新しい日常に向き合うヒント
人生は苦の連続なれど、
必ず道は照らされる

すべてが
当たり前でなく、
ありがたい

親鸞聖人の
血脈を継ぐ
若きリーダーが読む
新しい日常に
向き合うヒント

人生は苦の連続なれど、
必ず道は照らされる

B6変形 並製236ページ
定価(本体1300円+税)

すべてが当たり前でなく、ありがたい

おなたにこうじゆん もんしゆ ちよしよ
大谷光淳ご門主さまご著書。あなたの素朴な疑問に、ご門主さまが一問一答形式
で優しく答えます。新しい日常に向き合うヒントがここにある。
せつしゆふしや
「摂取不捨」という言葉があります。「摂取」とは、せつしゆ 仏さまが自分の ほとけ 懐 ふところ の中 じひ に、慈悲
の手の手の中におさめとって、捨てない、見放さない、ということです。「どんなに辛く悲
しい状況に置かれようとも、私はあなたを決して見放さない」という ほとけ 仏さまからの
最強のメッセージです。(お伝えしたいこと-序文にかえて-より)

(株)幻冬舎 発行

本願寺出版社ホームページより

編集後記

本年もどうぞ宜しくお願い
致します。◆年もあらたま
り、「住職法話」は真宗教
団連合発行の法語カレンダー
のことはお題に進めて
いきます。万行寺寺報の創
刊は、この法語をお題にし
て始めたのがきっかけでし
た。初心にかえり、毎月発
行を再開しようと思いま
す。◆昨年来のコロナ禍に
より、仏事もかなり減って
います。少しでも ほとけ 仏さま
の教えにふれるという意味
で、寺報は続けていく決意
です。◆表紙ページの左上
にQRコードがあります。
携帯電話などで読み取って
頂くと、万行寺のホームペ
ージを見ることが出来ま
す。